

[平成25年度予算審査特別委員会（総務財政分科会）－03月07日-01号]

◆芝田 委員 お疲れさまです。眠たい時間ですけれども、私と、あと大毛委員で終わりますので、よろしくお願ひいたします。

私は、今回、分科会では予算案の総括的なお話をして、議論を進めていきたいなというふうに思ひます。きょうの分では、平成25年度当初予算案について、配分、編成、負債についてという観点で議論をしてまいりたいと思ひます。

配分、編成については、午前中、井関委員からも議論がありましたけれども、また、市長の答弁でも、いわゆる今予算案は、生活支援、まちづくり、そして安心・安全、そしてまたマスタープラン等の施策を実行するための内容だというふうにお聞きをしております。大綱質疑でも、我が党の裏山議員より、生活支援とまちづくりのその内容の施策、事業等も答弁をいただひんですが、なかなか予算案の全体の占める割合が示されなかったんですが、もう一度、生活支援とまちづくりの予算配分への占める割合について、お答えいただきたいと思ひます。

◎竹下 財政課長 大綱質疑の財政局長答弁におきまして、生活支援、まちづくり、それぞれにどのような取り組みをしたかということはお答えさせていただいたんですが、予算に占める割合ということで申しますと、例えば、生活支援ではどのようなものを生活支援として取り扱うのか。例えば、障害福祉サービスであったり、生活保護費であったり、どういったものを生活支援として取り扱うのかという明確な定義は我々設けてございません。また、まちづくりにつきましても、例えば、生活道路の整備というものは、これはまちづくりにも生活支援にもともに寄与するものでございます。

そうしたことから、今回、当初予算として、生活支援とまちづくりにつきましては、新規拡充事業、重点事業としてお示しはいたしました、それぞれの額が幾らであって、それが予算の中で何%を占めるかといったようなことについては、我々は集計をしておりますので、残念ながらお示しすることができません。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、この議論も大綱でもありましたけど、経常収支比率が高いということで、いわゆる財政の硬直化の1つの要因であるということではありますが、この当初予算案で見る経常収支比率は幾らなんでしょうか。

◎竹下 財政課長 申しわけございません。経常収支比率につきましては、25年度当初予算案の中では、決算において算定するものでございまして、当初予算案の中ではお示しできておりません。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、平成23年度決算での収支比率は幾らですか。

◎竹下 財政課長 平成23年度決算におけます経常収支比率は95.5%となっております。以上でございます。

◆芝田 委員 これは硬直化を示す比率でしょうか。

◎竹下 財政課長 一般論でございますが、90%を超える場合、財政が硬直しているというふうに言われてございます。以上でございます。

◆芝田 委員 先ほどの答弁の中で、生活支援がなかなか数値ではあらわせないということですが、竹山市長になって、いわゆるマニフェストの推進を含めて、我々も賛成しているところは多いんですが、1回予算をつけてしまえば、恒常的にそれが毎年加算されていくと、加算というか、ちゃんと固定されてしまうということで、こういったことが経常収支比率の硬直化に反映されているんじゃないでしょうか。

◎竹下 財政課長 私どもの認識としまして、竹山市長になってから経常収支比率が途端に悪化したということは認識しておりません。堺市の場合は、過去から経常収支比率は高どまりしているという状況なのかなというふうに認識してございます。以上でございます。

◆芝田 委員 我が会派も、そういう大綱でお話させていただいていたように、やはり成長戦略とか、また、選択と集中はされているとは言うておりますけど、やはり予算案にそういう将来にきちっとした税収効果が見込める、そういったことを盛り込んでいただきたい。そういうことも要望させていただいたわけですが、私も12日の総括質疑のほうにもエントリーさせていただいておりますので、この辺、またそちらのほうで進めたいと思います。

もう1つ、負債について、当初予算案が発表されまして、過去最高の借金、市債残高、そしてまた基金の取り崩し、そういった中で竹山市長は、今回、生活支援とまちづくりに重点を置いた予算を組んだというふうに、やゆされているような感じもありますけれども、そういった意味で負債に関しての見解をお示しいただきたいと思います。

◎竹下 財政課長 負債に関しての見解ということでございますが、近年、市債残高は大幅に増加しております。ただ、この大幅な増加の主なものについては、先ほどもちょっと議論がありました臨時財政対策債の残高が、大幅に増加しているということが主な要因になってございます。以上でございます。

◆芝田 委員 これはそちらからいただいた資料ですが、市債残高の推移ということで、総額で3,010から3,352、そして3,757、4,070という、かなりここ4年間でぐっと上がっております。先ほどの議論でも、いわゆる臨時財政対策債の見解もお聞きしたので、国の借金の肩がわりを堺市がしているということでもありますし、また、一番下の金額は少ないですが、満期一括償還分も基金でため込んでいただいているということで、ちゃんと丁寧に四角で囲んだのが、そういったのを省いた金額ということで、これも微増でありますけれども、過去3年間、2,320から2,531、2,612というふうに上がっている、いわゆる借金がふえていると、私なんかは認識をさせていただいているんですが、ここの投資的事業などというようなことがあります。これはどういう意味なんですか。

◎竹下 財政課長 市町村が企業債を発行する場合、一般的には設備の投資等に起債を充当いたしますので、こちらでお示したグラフにつきましては、起債残高のうち、一般的に、いわゆる起債として発行した額を投資的経費などという表現で掲載させていただいたところでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 赤字市債という認識はあるんですか。建設的な市債発行ということは理解できるんですが、この中になどあるので、もう一度確認ですが、御答弁ください。

◎竹下 財政課長 こちらのほうの金額は、全て建設事業に伴うものという理解をしていただければ結構かと思っております。以上でございます。

◆芝田 委員 そしたら、昨今言われます扶助費の増大等、義務的経費の歳出に見合う分は、こういうところでは調達していないという理解でよろしいんですか。

◎竹下 財政課長 委員お示しのとおりでございます。

◆芝田 委員 次に示させていただいたのは、先ほど言いましたように、基金残高も減っているということで、ここに示していますように、昨年で、予算ベースですが、475.2億から383.6億に下がっておりますけど、この説明をお願いしたいと思います。

◎竹下 財政課長 まずお示しのグラフでございますが、平成23年度まで、こちらのほうが決算の数字でお示しさせていただいております。24年度、25年度につきましては、予算の数字でお示しさせていただいたところでございます。基金の額、下がっておりますが、こちらのほう、1つが、やはり厳しい財政状況の中、平成25年度の事業を実施していくためには、一定基金の活用が必要であったことが主な要因でございます。

ただ、これにつきましては、ただ単に預金をとり潰すということではなくて、そもそも基金自身がそういった施設整備を目的に積み立てられた、そもそもの目的に充当したという基金もかなり多くあるということと、もう1点が、先ほど、予算と決算という御説明をさせていただきましたが、予算というのは、やはり設計価格等を見込んで、実際の落札価格という意味でいいますと、支出額、歳出額が圧縮されるということになりますので、決算を打ちますと、基金残高がもう少し復元していくという傾向がございます。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、これも大綱のほうで議論をさせていただきました。大型プロジェクトが、これからめじろ押しというたらあれですが、ここに示したように、平成23年度から平成32年度中長期見込みの中で、主な大規模事業ということで、阪神高速大和川線事業が一番多くて530億円、また、連続立体交差ということで、示された中で、やはり将来的にお金を使うんじゃないか。そしてまた先ほど言いましたように、やってしまった事業というのは、一つ一つは少額かもわかりませんが、これがかなりボディブローのようにきいて、堺市の足を引っ張るんじゃないか。財政の足を引っ張って、結局は必要な市民サービスが滞るんじゃないかという危惧があるわけですけども、その辺に関して御見解をお示してください。

◎竹下 財政課長 今、委員お示しの事業費につきましては、これは堺市マスタープランを策定するに当たりまして、マスタープランの中に掲載されている事業、さらに本市がお示ししております中長期の財政見通しは、マスタープラン策定時にお示したものでございますが、このマスタープランの中長期の財政見通しの中には、これら事業は全て折り込んで、中長期財政見通しを策定したところでございます。この見通しにおきましては、マスタープランの計画期間中の財政は基金の活用等を図ること、また、強力な行革を進めることによって、財政的には実現可能だということをお示したところでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 確かに中長期の財政収支の見込みも見せていただきまして、今言われた、ある程度、理解もさせていただいているんですが、本当にそうなのかという危惧も残っているのは確かでございます。

それでは、現予算案の中で、いわゆる税源涵養、人口誘導、定着化に結びつく施策があればお示しいただきたいと思っております。

◎竹下 財政課長 平成25年度当初予算案では、市民生活への支援と堺の発展のためのまちづくりという意味を込め生活支援・まちづくり予算とし、限られた財源をマスタープラン、堺・3つの挑戦に積極的に配分するとともに、災害に強いまちづくりの推進や地域のつながり、きずなの強化などを図ったところでございます。こうした取り組みを積極的に推進し、子どもを産み育てることや、住まうことに安心感を持っていただくとともに、多くの人々が行き交うにぎわいの創出につなげることにより、将来にわたって人口誘導や定着、税源の涵養にもつながるものと考えてございます。以上でございます。

◆芝田 委員 いつもこういう、また質問すれば、そういうキーワード、文言が出てき

て、我々もちょっと首をかしげる部分があります。先ほど、臨時財政対策債も、結局は途中から国が財政が厳しいから地方が肩がわりを一旦しているわけですし、また、きょうの新聞でも、10年後には国債1,000兆円ということで、30年前は100兆円だったんですが、そういった意味では、ますます国も地方も、堺市は、早目にいろんなことに手を打たれているから、まだまだましという見解への理解は私もあるんですけども、いろんな意味で、悪い要因が本当にある中で、やはりけちと言われた市長でありますので、無駄は省いて、そしてまた基金の取り崩しも本当にしっかり悩んでいただいて、そしてまた借金するも、やはり悩んでいただきたいということをお願いしたいなと思ひまして、この後、総括質疑のほうで議論を進めさせていただきます。ありがとうございました。

◆大毛 委員 御苦労さまでございます。最後の質問者ということでございますので、5時少し回るかもわかりませんが、よろしくお願ひをしたいと思います。

分科会のほうで3点ほど通告をしておりますので、その3点について御質問を申し上げます。まず、庁舎管理について、来庁者駐車場等整備事業についての質問を申し上げます。

第2款総務費、第1項総務管理費、第10目庁舎管理費のうち来庁者駐車場等整備事業に関連して予算が計上されております。市役所は、市民の行政サービスの拠点として、利用する市民の皆様へ優しい行政サービスを提供する場所だというふうに私は思っております。しかし、現状を見るに、来庁される皆様方の車が駐車場になかなか入れずに、渋滞をしたり停滞をしたりする状況をよく見かけます。高層館と堺区役所とメインの行政庁舎として、多くの市民の皆様方が訪れております。市民の皆様からは、役所に行くとは駐車場になかなか入れない。議員さんは割り当ての駐車場があつてすぐ入れるのでいいですねというような苦情にも似た嫌みを聞かされます。

ちょうど、今、3月18日まで、市民税、府民税の申告期間でもありまして、大勢の市民の皆様方が訪れ、いつもよりも駐車待ちの時間が、あるいは車の列が長いように見受けております。まず、来庁者の駐車場として、本庁舎には何台の駐車場が確保されているのか、お示し願ひたいと思ひます。